

カワラヒワ

Carduelis sinica

アトリ科・夏鳥



カワラヒワ

名前の由来

川原にたくさんいるヒワなので。ヒワは、弱々しい鳥の意で鶺鴒と書く。漢字名：河原鶺鴒

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）14.5cm。スズメよりややずんぐりした体つき。尾の先はM型に切れ込んでいる。体は緑がかった褐色で、くちばしは円錐型で太く淡いピンク色。翼の後部分は黒く、中央部が鮮やかな黄色。飛ぶとその黄色い帯が目立つ。

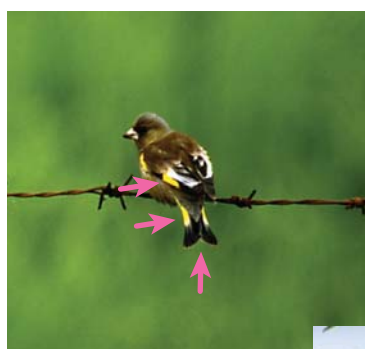
オスは頭が黄緑がかっており、目先が黒っぽい。メスは色が淡い。

声：飛びながら「キリキリコロコロ」と明るい声で鳴く。「チョンチョン」という声も入るといふ。

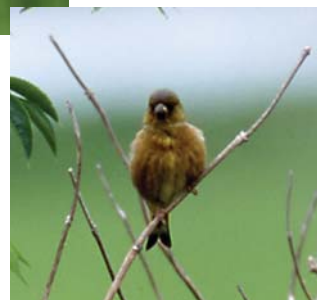
枝にとまって「キリキリコロコロ」の合間に「ビーン、ビーン」と濁った声でさえずる。

飛び方：浅く羽ばたいては、羽ばたきを休む、という動作を繰り返しながら直線的に飛ぶ。

翼を開いて羽ばたく際、翼の鮮やかな黄色い帯が目立って見える。



カワラヒワの後ろ姿
翼の他に尾羽の脇も黄色い。
尾のM型(逆Vの字)も特徴



カワラヒワの正面は地味

生息環境・分布

人家周辺、農耕地、雑木林、川原のいろいろな林に生息。

分布：中国、ウスリー川・アムール川流域、モンゴル、朝鮮半島、日本などに分布。

日本では北海道から九州までの全域に分布。北海道・雪国以外では留鳥である。

北海道には3月中～下旬に渡来し、夏鳥として繁殖。開けたところでよく見かける。雪の少ないところでは少数が越冬することがある。

十勝では、3月下旬に渡来し、夏鳥として繁殖。平地の草地から山地の樹林まで普通にみられる。少数が越冬するこ

とがある。



雪とカワラヒワ。新潟県では留鳥である

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州以南 (越冬期・通年)	越冬期											

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシタカ

食性・他生物との関わり

四季を通じて、キク科、イネ科、タデ科、マメ科などの植物の種子だけ食べる。ヒナにも種子だけを与える。(→興味深い話の項参照)

猛禽類などに捕食される。

繁殖生態

繁殖期は3～7月。越冬地から戻ったオスメスは集団になって、つがい作りのための集団ディスプレイ(誇示のための行動・動作)をわずか10分程度行って、一夫一妻のつがいを作る。(→興味深い話の項参照)

その後なわばりを作り巣を作る。巣作りはメスのみが行い、巣材として樹皮、羽毛、綿、枯れ草の根や葉を用いて、木の枝に外径8cmくらいのお椀形の巣を作る。オスはその周りで絶えず警戒と防衛に当たるといふ。

3～5個くらい産卵し、メスだけが卵を抱き、12～15日でヒナがかえる。抱卵期には餌をねだるメスに対してオスは求愛給餌を行うという。

オスメス共同でヒナを育て、12～17日後ヒナは巣立つ。餌

をねだる幼鳥は「チュンチュンチュン」と続けて鳴くという。



撮影：浦幌野鳥倶楽部

カワラヒワ。翼の黄色い帯が目立つ

興味深い話

- 標識調査で、7年の生存が確認されている。
- 樹木のある市街地の公園などでもよく見られる。飛びながらキリキリコロコロと明るい声で鳴く。
- つがい作りのための集団ディスプレイでは、まずオス同士が威嚇、攻撃をしあって強いオスを決め、そのオスがメスに求愛をする。求愛の際には頭頂の羽毛を逆立て翼を下方へ突っ張るようなポーズをとる。
- 繁殖期には各つがいがある中心に900㎡くらいのなわばりを作る。なわばりはルーズな集団営巣的に集まっているという。
- つがいを作り損なったオスは、他のつがいの集団営巣的ななわばりと重複したなわばりを作り、つがい相手のオスを失ったメスとつがいになるという。
- 市街地では巣の材料にビニール紐がよく使われる。
- タンポポの種子をよく食べる。

- ヒナに餌を与える際、親は種子の皮をむいて胚乳をそ嚢に貯えた後、ヒナに給餌するという。



カワラヒワ。種を食べるだけあって、くちばしがしっかりしている

配慮事項

市街地や農耕地などの樹木が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「新潟県探鳥地 雪国の鳥を訪ねて」日本野鳥の会新潟県支部 編著、新潟日報事業社 1997

中村浩志 (1991) カワラヒワ *Carduelis sinica* の誇示行動地域からの分散と繁殖期における社会構造. J. Yamashina Inst. Ornith., 22 : 9-55.
羽田健三・中村浩志 (1970) カワラヒワの生活史に関する研究. 鳥, 20 : 41-59.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ